

# 呼吸器外科における診療看護師（NP）の タスクシフト・シェアに向けた現状報告

## Nurse Practitioner (NP) in Thoracic Surgery of Current Status Report on Task Shifting and Sharing

長谷部亮<sup>1)</sup>・高森聡<sup>2)</sup>・中塚真里那<sup>2)</sup>・遠藤誠<sup>2)</sup>

1) 山形県立中央病院 診療看護師 (NP), 2) 山形県立中央病院 呼吸器外科

### 要 旨

#### 【目的】

外科領域の中でも専門性の高い呼吸器外科に従事する診療看護師（NP）の活動報告はなく、業務軽減効果は明らかではない。本報告の目的は、A病院呼吸器外科に配属された診療看護師（NP）および医師業務に与える影響を明らかにする事である。

#### 【方法】

2022年5月から呼吸器外科（医師数3名）に診療看護師（NP）1名が専従し活動を開始した。

調査期間は2022年5月～2023年3月の11か月間。専従診療看護師（NP）の業務内容を病棟業務、外来関連業務、手術関連業務、自己研鑽の4つに分類して活動の詳細、従事時間、回数を記録し、それぞれの割合を調査した。

#### 【結果】

業務の内訳は、病棟34%（検査評価、胸腔ドレーン管理、退院調整等）、外来27%（入院時サマリ作成、COVID-19検査等）、手術20%（創処置、スコピスト、鉤引き等）、自己研鑽19%（文献検索、発表準備等）で、合計100%を占めた。これらの業務のうち、特定行為が占める割合は病棟2%、外来4%であった。1か月20日間、外来12日として計算すると、診療看護師（NP）は医師1人あたり、病棟業務が1日2時間、外来業務が1日2.9時間分の業務を担当していた。

#### 【結語】

呼吸器外科での診療看護師（NP）の役割とタスクシフト、シェアの実態が示された。医師の管理下で自律した相対的医行為と多職種の円滑な業務の遂行に貢献できる診療看護師（NP）は呼吸器外科においても業務軽減効果が認められ、タスクシフト、シェアに有用と考えられた。

Key Words：診療看護師（NP）、呼吸器外科、タスクシフト、シェア、特定行為

## I. 緒言

2024年4月から実施された「医師の働き方改革」を契機に、医師から多職種へのタスクシフト、シェアが注目を集めている。タスクシフト、シェアは医師の負担を

軽減し、専門性を高め、質、安全が確保された医療を持続可能な形で患者に提供できることを目指している<sup>1)</sup>。しかし年々人口が減少しているなかでも医師数、看護師数は増加しているが、地域や診療科別の偏在により必要な分野、部署に医療の手が届いていない<sup>2)</sup>。

外科領域でも医師の業務負担が大きく時間外労働の増加が問題となっており<sup>1)</sup>、診療看護師（NP）は医師の業務を代行し、医師の負担軽減となる可能性や<sup>2)</sup>、医師の業務のタスクシフト、シェアの担い手として期待されている<sup>3)</sup>。しかし専門性の高い外科の一分野である呼吸器外科領域における診療看護師（NP）による業務軽減効果は明らかではない。本報告の目的は、呼吸器外科領域に配置された診療看護師（NP）の業務および医師業務に与える影響を明らかにする事である。

## II. 方法

### A病院の診療体制

A病院は3次救急までを対応する救命救急センターを併設する全609床の総合病院である。2018年から診療看護師（NP）が採用され、主に消化器外科と乳腺外科領域において診療に従事してきた。筆者は看護師15年目、2022年4月に診療看護師（NP）として追加採用され、5月から呼吸器外科において専従の活動を開始した。A病院の呼吸器外科は医師数3名、診療看護師（NP）1名、手術日は週2回、外来診療日は週3回、年間の全身麻酔下手術件数は220例ほどの呼吸器外科学会基幹施設である。

本報告はA病院において実施された後ろ向き記述検討である。

A病院において診療看護師（NP）が呼吸器外科に配属された2022年5月から2023年3月までの11カ月間の活動内容及び所要時間を診療看護師（NP）本人が自己申告し集計した。4つのカテゴリー（病棟業務、外来関連業務、手術関連業務、自己研鑽）に分け、各活動時間の割合を算出した。勤務形態は診療科に属し週5日間の平日勤務で月20日間であった。

呼吸器外科という専門性の高い領域であることから、勤務時間内での臨床や治療方針を把握するための必要時間を自己研鑽とした。

単純X線および血液データの評価については医師と情報を共有し評価した。

特定行為を含む、今回実施したすべての医行為は直接指示で行い、ドレーン管理は医師の直接監督下で行った。

## III. 結果

調査期間の11カ月間の実働日数は226日、1か月あたりの実際の実働日数は20日であった。活動の総時間数は1433時間、総活動回数は2143回であった。活動時間内訳は、病棟業務490時間34%（うち特定行為10時間2%）、外来関連業務381時間27%（うち特定行為15時間4%）、手術関連業務290時間20%、自己研鑽272時間19%であった（図1）。

この期間の診療看護師（NP）の活動を各カテゴリー別に分け、それぞれの行為の総回数、総所要時間に分け示した。（表1-3）

病棟業務においては、単純X線の評価が最多で271回、活動時間ではドレーン刺入部等処置で146時間であった。（表1）

外来関連業務においては、外来からの入院時に作成する診療録、サマリの入力が入力が最多で136回であった。活動時間でも同じく入院時診療録、サマリ作成であり124時間であった。（表2）

手術関連業務においては、創部の縫合が最多で110回、活動時間では手術中のスコピストが最長で119時間であった。（表3）

特定行為においては、外来での動脈血液ガス分析採血が最多で135回であり、所要時間では創傷処置が最長で32時間であった。（表2）

診療看護師（NP）の全活動時間から自己研鑽の時間を差し引いた業務時間は1091時間、1日あたり5時間であった。

## IV. 考察

呼吸器外科領域における診療看護師（NP）の活動内容並びに具体的に有用性を示した既報は検索しえなかった。本報告から、当院の呼吸器外科での診療看護師（NP）が行った業務の内訳において、特定行為は全体活動内容の6%にしか満たず、病棟や外来・手術での特定行為以外の診療の補助が大半となっていた。外科における診療看護師（NP）は多職種との協働連携により、絶対的医行為である手術に医師が集中できる様、医師が手術の間は入院患者の周術期管理や急患対応などを担うことができる<sup>4)-6)</sup>。本報告においても医師が手術に

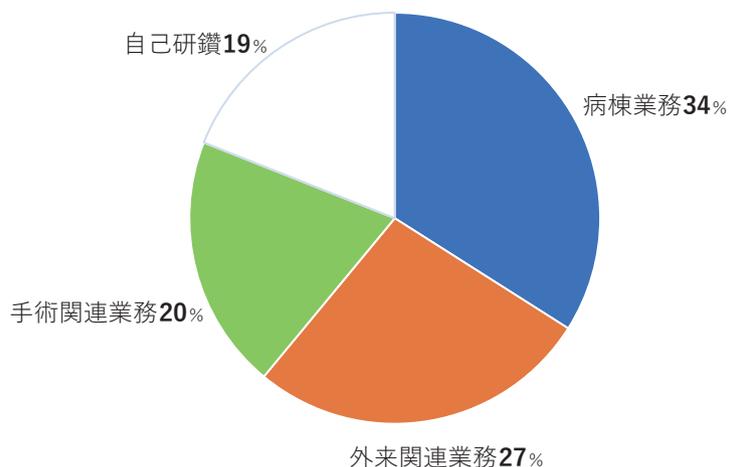


図1 診療看護師（NP）が導入された2022年5月から2023年3月までの活動時間割合

表1 2022年5月から2023年3月までの病棟業務の内容とそれぞれの施行回数と所要時間  
(単純X線, 血液データについては結果を医師と共有し評価)

	回数	時間
単純X線の評価	271	42h
ドレーン刺入部等の処置	197	146h
診療情報提供書の代行入力	195	107h
血液データの評価	146	28h
胸腔ドレーン抜去	121	23h
術後帰室時の患者搬送	118	86h
低圧持続吸引器の設定変更	19	2h
気管カニューレの交換	2	1h
その他		55h

表2 2022年5月から2023年3月までの外来関連業務の内容とそれぞれの施行回数と所要時間  
(同意書については代行取得し, 医師の確認, サインを行う)

	回数	時間
入院サマリ	136	124h
血液ガス採血	135	30h
コロナウイルス抗原検査	47	22h
創傷処置 (壊死組織除去も含む)	45	32h
胸腔ドレナージ同意書説明・取得	38	10h
予診・初療	29	35h
造影CT穿刺	26	6h
その他		122h

表3 2022年5月から2023年3月までの手術関連業務の内容とそれぞれの施行回数と所要時間  
(医師の直接監督下で実施)

	回数	時間
縫合（スキンステイプラーも含む）	110	37h
スコピスト	46	119h
術中の鈎引き	39	98h
胸腔ドレーン管理	31	17h
アスピレーションキット管理	20	19h

よって病棟や外来不在中の患者対応を診療看護師（NP）が担うことができていたことが示された。

当院の呼吸器外科での診療看護師（NP）の活動内容の割合では、病棟業務34%、外来関連業務27%、手術関連業務が20%で全活動の81%であった。

当院での呼吸器外科での診療看護師（NP）の業務の場は病棟、外来業務がその大半を占めていた。病棟業務での活動時間は、ドレーン刺入部等の処置が最長、単純X線の評価が最多の頻度で、特定行為の中では、ドレーン抜去が多く、呼吸器外科ならではの業務内容を反映していた。

診療看護師（NP）が医師と看護師の「橋渡し」役として、お互いの情報を共有し、看護師の代弁者、医師の通訳者、さらには多職種間の連携、調整役としてチームのマネジメントに貢献し、チーム医療の実現および推進に寄与することが報告されている<sup>7)</sup>。今回、外来関連業務においても、本来医師が記載していた入院時の診療録、サマリの作成を診療看護師（NP）が行い、活動時間、活動回数ともに最長最多であった。このことが、入院時の患者の病状、治療方針、課題を把握し多職種との情報共有を進める上で、チーム医療の実現および推進に診療看護師（NP）が重要な業務を担うことができていた可能性がある。

また診療看護師（NP）による外来ドレーン管理や術後フォローの報告がある<sup>8)-9)</sup>。これらは早期退院の推進や医師と遜色ない結果を示し、患者への有用性を示唆している。当院でもNPが中心となり外来での術後患者の創処置や問診を行っており、同様に外来においてもNPの業務拡大が期待される。

業務時間は、全活動時間から自己研鑽の時間を差し引くと1日あたり5時間であった。医師が実施していた入院時の診療録およびサマリの作成、直接指示行為、特定

行為に診療看護師（NP）が関与することで、入院時の患者の病状把握、治療方針の策定、課題抽出、多職種との情報共有を行うことが円滑化した可能性がある。医師と診療看護師（NP）の間で業務を分担し、医師3名と診療看護師（NP）によるタスクシェアにより、医師や看護師の労務負担軽減に寄与するとともに、患者ケアの質向上にもつながる。

診療科に所属し、相対的医行為と特定行為が実施できる診療看護師（NP）にタスクシェアすることで医師の業務中断時間を解消し、専門性の高い診療への集中、時間外業務の短縮、休憩時間の確保に貢献できる可能性があり「医師の働き方改革」への実現の一助となる。さらに、患者の待ち時間の短縮、医療者及び患者家族のストレス軽減が期待される。

本報告からは呼吸器外科という専門性の高い、医師の少ない診療科においても横断的診療を行うことができることが示せた。

今回はA病院呼吸器外科における結果であり、医師の人数など異なる他施設に同様の結果を外挿できるかは、今後さらなる検討を要する。呼吸器外科の診療内容、体制によっても診療看護師（NP）の活動内容は多様であり、厳密に業務内容を分けカテゴリー化するのは難しい。さらに自己申告のデータの為、所要時間においても診療看護師（NP）の経験年数でも差が表れることが予測され今後の検討が必要である。このような多様な業務と専門性の高い診療科において、今後、協働診療体制の構築の一般化は必要である。診療看護師（NP）の活動が医師、多職種に与えた影響とその効果を評価することが、今後の課題と考えられた。この報告がよりよい医療を目標としたタスクシフト・シェアの推進や医療スタッフ育成に資することを期待している。

## V. 結語

当院の呼吸器外科における診療看護師（NP）の主な活動は病棟、外来業務であった。さらに特定行為は総業務時間数の6%と少なく、タスクシフトを進めて行く上で重要なことは特定行為のタスクシフトではなく、医師の管理下で自律した相対的医行為と多職種の円滑な業務の遂行に貢献できる診療看護師（NP）にタスクシフト、シェアをすることであると考えられた。

## VI. 謝辞

本報告を行うにあたりご指導いただきました遠藤誠先生はじめ、高森聡先生中塚真里那先生には深く感謝いたします。

## VII. 利益相反

本研究遂行において利益相反は存在しない。

## 引用文献

- 1) 厚生労働省医師の働き方改革概要 <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/001129457.pdf> (2024年9月9日閲覧)
- 2) 国島正義, 竹田明希子, 岩崎泰昌: 当院における医師から診療看護師へタスクシフトしたPICC挿入活動に関する報告. 医療, 78 (2): 94-97, 2024.
- 3) 渡邊隆夫, 荒木とも子, 工藤剛実, 他: 診療看護師（NP）の養成と地域医療への展開について. 新潟医学会誌, 136 (1): 14-32, 2022.
- 4) 福田淑江: 診療看護師と看護師が連携, 協働することの効果と看護部としての支援. 第66回国立病院総合医学会: 341-345, 2012.
- 5) 工藤淳, 安彦武, 齋木佳克, 他: 看護師特定行為研修の黎明期における課題と診療看護師（NP）のこれからへ診療看護師（NP）からの視点. 日本心臓血管外科学会雑誌, 52 (2): 137-141, 2023.
- 6) 塩月成典, 藤内美保, 藤本響子, 他: プライマリ領域における周術期アウトカム, 患者満足度, 看護師からの評価 診療看護師5年目の事例. 看護研究, 48 (5): 420-425, 2015.
- 7) 宇田川美紀, 草間朋子, 別所遊子: 診療看護師（NP）, 医師, 看護部長, 看護師の視点からみた高度急性期病院におけるNPの役割と活動に関する考察. 日本NP学会誌, 4 (2): 19-32, 2020.
- 8) Harrison OJ, Vilar Alvarez ME, Snow V, et al: Ambulatory chest drainage with advanced nurse practitioner-led follow-up Facilitates early discharge after thoracic surgery. Gen Thorac Cardiovasc Surg, 71 (3): 182-188, 2023.
- 9) Keshava HB, Tan KS, Dycoco J, et al: Long-term assessment of efficacy with a novel thoracic survivorship Program for patients with lung cancer. J Thorac Cardiovasc Surg, 163 (5): 1645-1652, 2021.

## Abstract

### 【Purpose】

There are no reports on the activities of nurse practitioners (NP) engaged in Thoracic surgery, a highly specialized surgical specialty, and the effect of reducing NPs' workload is unclear. This study aimed to clarify these effects on the work of NPs assigned to the thoracic surgery department of the hospital.

### 【Methods】

An NP began working exclusively in the Department of Thoracic Surgery (comprising three physicians) in May 2022. The study period was 11 months from May 2022 to March 2023. The NP's activities were classified into four categories: ward work, outpatient-related work, surgery-related work, and self-study. Data on the activities performed, time spent, and frequency of working were recorded.

### 【Results】

The distribution of work was as follows: 34% in the wards (e.g., laboratory evaluation, thoracic drain management, and discharge coordination), 27% in the outpatient clinic (e.g., preparing admission summaries and COVID-19 testing), 20% in surgery (e.g., wound care, scopist, and hook pulling), and 19% in self-study (e.g., literature search and presentation preparation), accounting for 100%. Specific activities accounted for 2% and 4% in the wards and outpatient clinic, respectively. Support was provided on approximately 20 and 12 days per month and corresponded to 2.0 and 2.9 hours per physician a day in the wards and outpatient clinic, respectively.

### 【Conclusion】

This study clarified the role of medical NPs in thoracic surgery in contributing to task shifting, sharing, and workload reduction through autonomous practice under physician supervision and interprofessional collaboration.

**Key Words** : nurse practitioner, thoracic surgery, task shifting, sharing, specific action